

5年に一度 全員参加の統計調査 平成22年国勢調査が 始まります

日本最大の 統計調査

平成17年3月、当時の菊池市、七城町、旭志村、泗水町が合併して、「菊池市」となりました。合併した年の10月、平成17年国勢調査が行われ、菊池市の人口は51,862人でした。あれから5年。合併後、2度目となる国勢調査が始まります。

始まりは大正9年

国勢調査は、英語の「人口センサス」の訳語とされており、全国的な人口の全数調査を意味しています。当初は民勢調査などの訳もあったようですが、国勢調査という言葉が公式に使用されたのは明治29年が最初とされています。その後、明治35年に「国勢調査ニ関スル法律」が成立して以来、国勢調査として定着したようです。

今のような国勢調査として調査が開かれたのは、現在90歳の人が生まれた大正9年で、これが第1回国勢調査となっています。平成22年調査は、それから数えて19回目の調査になります。

なぜ、人口を調べるのか

雑誌やテレビで紹介される人気ランキングなど、普段から私たちはいろんな統計情報を目にしています。「統計」とは、現状を数字で表すことで、どんな状況なのか具体的に示すことができるものです。

国や県、市町村が施策を考えるときに「なんとなくこういう状況だから」とあいまいな情報だけで計画することはできません。高齢者が増えているみたいだから医療費補助の予算を1億円増やそうなど、根拠のない予算を立てると財政を圧迫してしまいます。そこで統計情報を用いて、高齢化率がどう変化しているのか、どの程度補助を必要としているのかなど、具体的な状況を把握し、事業を進めるための資料とするのです。

国が行う統計調査は、統計法という法律に基づいて行われます。統計法は国の統計に関する基本的な法律で、守秘義務や情報管理について定められています。国勢調査も統計法に基づいて行われる調査で、日本最大の統計調査と言われています。また、この調査で得られる統計情報は、いろんな施策の基礎資料として使われるため、最も重要な統計調査とも言われています。